

石井ゼミ 酒

PROJECT SAKE

城西大学 現代政策学部 石井ゼミ Eチーム

オール埼玉ブランドの日本酒造り
「醸彩 滝不動」

1. 取組の位置づけと達成目標

【プロジェクトの位置づけ】

- 城西大学現代政策学部3、4年生の合同ゼミ
- 構成員数38名（4年生19名、3年生19名）
- 「休耕地活用プロジェクト」は2009年から、今年度は4年目
- ゼミ内プロジェクトチーム制
- 学内外のクライアントとの連携プロジェクト

【達成目標】

- 休耕地活用の社会的しくみづくり
- 問題解決能力の向上と経験の蓄積
- 「他者」とのコミュニケーション能力向上

【参考】2012年度実施プロジェクト

連携先	内容
A.健康市民大学	畑を活用した健康づくりプログラム
B.薬学部薬科学科	フレッシュマンセミナーでの合同授業 (ハーブ栽培、実験、商品化)
C.坂戸市・地元企業	葉酸など含む機能性作物の栽培 「薬膳健康カレー」の企画・製造・販売
D.坂戸市・地元住民	高麗川ふるさと遊歩道周辺のお花畑化 高麗川健康ウォーキングとの連携
★ E.地元農家、JA、酒蔵、酒店、飲食店	酒米の栽培から日本酒醸造まで 大学・地域ブランドの日本酒造り

休耕地減少のための しくみづくり

我々Eチームは...

休耕地活用による
オール埼玉ブランドの日本酒造り

休耕地で栽培した酒米で大学・地域ブランドの
日本酒をつくり、地域で消費するしくみを創出する
付加価値のある農業の実践を使命とする

目標

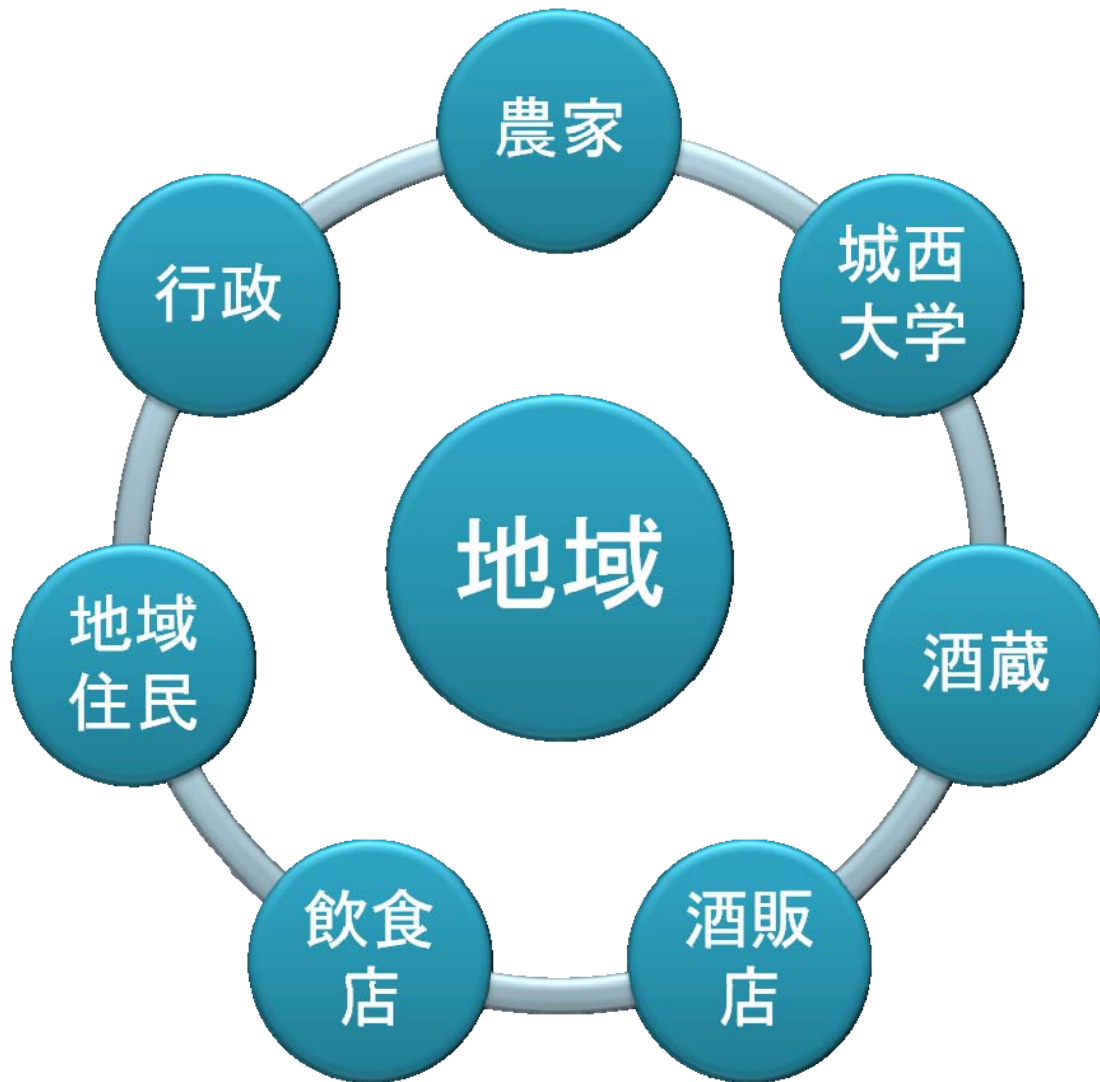
日本酒を完成させ、地域に定着させる！

2年目となる今年度は...

- ①日本酒を完成させる
→おいしい日本酒を1滴でも多く！
- ②地域に利益をもたらす販路構築
→連携主体それぞれに利益を！
- ③「醸彩」ブランドの定着
→地域の多くの方々に飲んでいただく
- ④今年度の酒米栽培
→酒米の品質向上・収量増加



活動体制



坂戸市・鶴ヶ島市
→ コーディネート

JAIるま野亀田理事
→ 農地提供・営農指導

石井ゼミ
→ 酒米栽培・日本酒づくり

麻原酒造
→ 日本酒の製造指導

ほりこし商店
→ 日本酒の販売

居酒屋いちき・魚介料理 海
→ 日本酒の提供

地域住民
→ 消費者

活動①：日本酒づくり

4カ月にも及ぶ日本酒製造！

仕込み



温度管理



しぼり



主な活動

- ・昼夜問わずの温度管理
- ・冷蔵庫内での手搾り
- ・力仕事である瓶詰め
- ・商品名の確定
- ・ブランド名の確定
- ・商品名、ブランド名の商標登録
- ・ラベル作成
- ・ラベル貼り

寒い、辛い、過酷 ...

ラベル作成



ラベル貼り



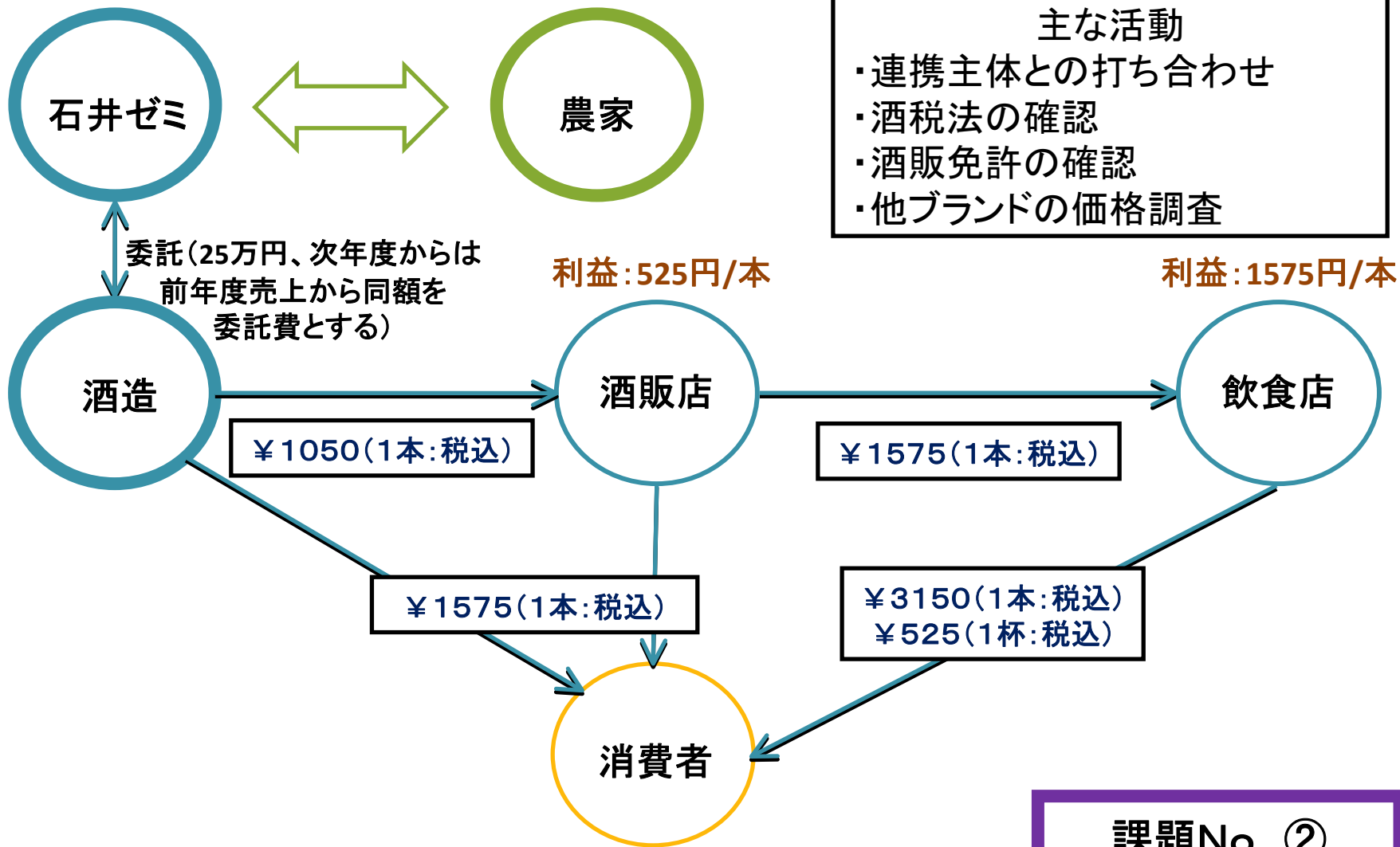
日本酒完成



課題No. ①

オール埼玉ブランドにこだわった日本酒造り！年度を超えていかに完成させるか...

活動②：販路構築



各連携主体との協議を重ねて... → 最善な販路と価格をどのように構築するか？

活動③:ブランド定着

完成した日本酒「醸彩 滝不動」を地域に定着させる!

坂戸市長へ表敬訪問



日本酒イベント



様々な地域イベントに参加
積極的に活動をPR
ブランディングに努めた

日本酒に**ストーリー性**をもたせることで
ブランドを明確にする手法は
「コミュニティ・ビジネス論」や**「NPO論」**などの
授業で紹介された各種実践事例が役立った!

JCN関東による取材

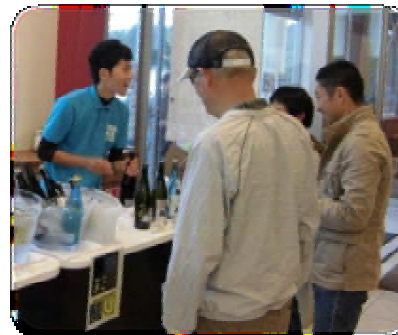


JCN 関東

フリーペーパーへの掲載



麻原酒造主催のビール祭り



課題No. ③

できるだけ多くの方々に日本酒を飲んでもらうにはどうしたらいいのか?

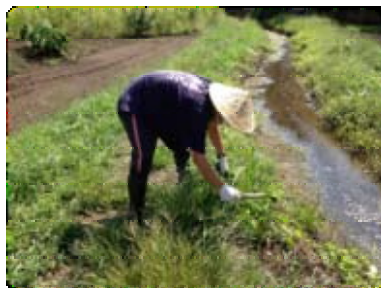
活動④：酒米栽培

6月上旬～10月中旬まで毎日欠かさずに作業！

田植え



除草作業



水管理



主な活動

- ・苗づくり
- ・代かき
- ・田植え
- ・毎日の成長記録
- ・毎日2度の水管理
- ・定期的な草刈り
- ・繁殖した藻の除去
- ・倒伏した稲の起こし
- ・稲刈り
- ・脱穀

暑い・危険・過酷...

成育管理



稲起こし



稲刈り



課題No. ④

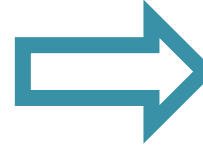
課題No. ⑤

自然相手の毎日の作業 → 大学の授業と平行していかに実行するのか？

活動の結果

販売結果

294本(720ml瓶)酒造し、全て完売！



売上(利益)

酒蔵: ¥340,725 (¥90,725)
酒販店: ¥366,975 (122,325)
飲食店: ¥85,050 (¥42,525)

イベントの結果

地域より100名弱の来場者(有料来場者73名)
地元市長2名、本学学長・副学長らが自費参加
地元ケーブルテレビ・新聞社による取材・掲載・放映



酒米栽培の結果

さけ武蔵収穫量: 約900kg 昨年の約2倍！

今年査定結果 : さけ武蔵 → 一等米(昨年は三等米)

収量&品質UP

自己評価

私たちの成長

①不安の解消から自信へ

本当に日本酒が出来るのか **不安** だった

完成してみると、自分たちがやってきたことに実感を覚えることができた

地域の方の美味しく飲む様子やお褒めの言葉は嬉しい

無から有を生み出したことは、大きな **自信** になる

ゼミ以外の活動で、社会の仕組みを学ぶことができた

これにより、大きく 視野は広がり、モノの見方が変わった

1杯の価値は、それまでの苦労を考えると言葉では表わせないもの

私たちの成長

② 周囲からの評価・期待

次への期待は、自分たちにとっての**原動力**になる

地域で期待が膨らめば、それは**地域活性化**へつながる
(酒造所・酒販店・居酒屋・料理店の主体を巻き込めた)

地域に貢献した**ブランド**づくりに一歩近づけた

今後の酒造でも期待に応えるためにも**向上心**を絶やさない

私たちの成長

③ 予見する大切さ

酒米栽培では昨年の収穫量・品質を上回ることが目標

チーム全員が主体的・継続的に毎日管理作業に取り組むことができた

結果 → メンバー全員での状況把握 → すぐに動ける
他のチームのメンバーにも協力を要請！

一等米の栽培に成功 & 収穫量を増量

④ チームの一員であることの自覚

各メンバーが自分の役割を理解し実行

与えられた作業により責任感を持つ事が出来た

現状に酔いしれることなく、成長と言う穂を実らせ続けたい

協力して下さったすべての関係者の方々に感謝